

学生の主体的な学びとなる実習記録の在り方

子ども理解を重視した新記録様式を使用した学生のアンケート調査から

杉岡幸代・高市勢津子

はじめに

本研究は、「学生の主体的な学びとなる実習記録のあり方－保育実習Ⅰ（保育所）における子ども理解を重視した記録様式の検討－」（注1）に続くものである。周知のとおり「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」において、保育実習Ⅰの目標の一つに「観察やかかわりを通して子どもへの理解を深める」が挙げられ、「子どもへの理解を深める」ことは実習学生にとって重要な学びの目標となっている。また、保育所保育指針解説書に、「養護と教育が一体的に展開され、保育の内容が豊かに繰り広げられていくためには、子どもの傍らに在る保育士等が子どもの心をしっかりと受け止め、相互的なやり取りを重ねながら、子どもの育ちを見通し援助していくことが大切」¹であると記述されるように、まず保育者が子どもの心を受け止めることから保育の営みが始まり、そこから豊かな保育内容が繰り広げられる。この保育の基本となる「子どもの心をしっかりと受け止める」ためにも、まず子どもを理解することが求められる。小山（2007）²が最近の学生の養成校入学前の乳幼児とのふれあいの乏しさを指摘しているように、学生にとっては、子どもの側で子どもを見、かかわることができる実習は、子どもを理解する絶好の機会となっていると言える。しかし、実習中の学生について、保育者の姿ばかりを追い、子どもをしっかりと見られていないことを実習園から指摘されることが近年増えてきたことは憂慮されるべき点である。その要因の一つに「流れ型記録」（注2）の様式に課題があるとの疑義から、先述の研究（「学生の主体的な学びとなる実習記録のあり方－保育実習Ⅰ（保育所）における子ども理解を重視した記録様式の検討－」）において、学生自らの学びにつながるような子ども理解を重視したものとなる「新記録様式」（注3）の検討と試作をし、「流れ型記録」と「新記録様式」に関するアンケート調査を実施するに至った。

本研究では、上述の研究に続くものとして、作成された実習記録（「新記録様式」）を初めて使用した学生に「新記録様式」に関するアンケート調査を実施し、新記録様式が学生の子どもの理解に繋がったのかどうかの検証とともに、「新記録様式」の課題について検討することを目的とする。

先行研究

実習記録様式に関する研究には、以下のものが挙げられる。

先述の小山（2007）は、学生の養成校入学前の乳幼児とのふれあいの乏しさを指摘しつつも子どもへの新鮮なまなざしをもつ保育者育成に向け、エピソード記録型実習日誌の効用と課題を検討し、学生の子ども理解と保育者援助の理解のためにはエピソード記録型日誌のさらなる指導や改善が求められると結論付けている。幸・秋田（2006）³は、保育学科新設にあたり実習の意義と目的に適った実習記録様式を作成した過程について論じ、さらに、幸（2009）⁴は、使用した記録用紙について検討し、実習園の担当者と実習生で記録用紙の使用しやすさには異なる傾向がみられ、実習生は「気づき、学び、考察」などの内的体験の記述をすることに意義を十分に見いだせないでいるのに対し担当者は実習生の内的体験の記述を実践での学びとして重視していることを明らかにしている。栗山（2010）⁵は、3年間という期間を活かした実習計画において有意義な実習記録様式の検討を行っている。開（2012）⁶は、時系列的に子どもの活動や保育者の援助を記述する「流れ型記録」が現在の保育実習記録では多く採用されているが、観察時に向いているものの、子どもと保育者のやり取りを詳細に記述できない点をデメリットとして指摘している。

以上にみるように、実習記録については様々な課題が残っているとと言える。特に、開（2012）の「流れ型記録」に対する指摘から、「流れ型記録」についての検討が保育所実習Ⅰ（保育所）の目標に鑑みて重要であると考えられる。また、「流れ型記録」が学生の学びに及ぼす影響を踏まえたうえで改善点の検討がなされることが重要と考えるが、先行研究ではそうした点について十分検討されてきていない。そこで、本研究では学生の「流れ型記録」と「新記録様式」に対する評価（注4）を基に、「新記録様式」を用いた実習を行った学生を対象にしたアンケート調査から、「保育実習Ⅰ（保育所）」（以後、「保育所実習Ⅰ」とする）の重要な目標の一つである「子ども理解を深める」ための実習記録様式の検討を行う。

研究方法

- ・調査対象…保育所実習Ⅰを終了した本学学生194名（「保育実習指導Ⅰ」の授業に出席した全員にアンケート用紙を配布。ただし、比較対象とするデータは、すべての問いに答えていた171名分とする。）
- ・調査時期…2017年7月
- ・調査内容…2017年6月の「保育所実習Ⅰ」において、初めて子ども理解を重視した「新記録様式」を使用した際の①記録作成の作業量、②記録作成の印象、③記録作成を通して育つ側面等を尋ね、アンケート用紙は回答後にその場で回収した。また、調査への参加は自由とし、調査に不参加の場合でも学業成績になんら影響のないことを口頭及び文面でも明らかにした。

結果と考察

表－１）アンケート調査対象学生の内訳

N (人数)	有効数	無効数
194	171	23

表－２）記録作成時間及び部分実習の状況の平均値

	N (人数)	最小値	最大値	平均値	SD (標準偏差)
毎日の平均的な記録作成時間 (時間)	171	0.5	8.0	2.5	1.0
指導案なしの部分実習日数	171	0	12	1.5	3.1
指導案ありの部分実習日数	171	0	3	1.1	0.6
半日・全日実習日数	171	0	3	0.3	0.6

表－３）指導案作成を伴う部分実習日数

	N (人数)	パーセント
0日	21	12.3
1日	111	64.9
2日	35	20.5
3日	4	2.3

表－４）半日・全日実習の日数

	N (人数)	パーセント
0日	123	71.9
1日	40	23.4
2日	7	4.1
3日	1	0.6

表－５）実習後の保育職への希望の変化

	N (人数)	パーセント
実習前より強くなった	54	31.6
以前と変わらない	73	42.7
以前より低くなった	12	7.0
わからなくなった	27	15.8
もともと希望していない	5	2.9

実習記録作成の平均時間は、2.5時間であった。また、記録作成のほかに部分実習を行うための指導案を作成した学生が約88%いた。さらに、約28%の学生が半日か全日の責任実習を行っ

ていた。記録作成には平均して2.5時間を要しているが、部分実習を行う際に指導案を作成する学生が約9割にのぼることや、さらに半日または全日の責任実習を行っている学生も約3割いることを考えると、記録以外にも実習準備等に時間を要することから2.5時間の記録作成時間は、決して短時間ではないと言える。

また、保育所実習後に保育職への希望に変化があったかどうかについて、約23%の学生が以前より低くなったやわからなくなったと回答している。しかし、保育職への希望の高低と記録作成にかかった平均時間とを比較してみると、保育職への希望が「以前より強くなった」または「以前とかわらない」と回答した学生の記録作成にかかった平均時間は2.48時間となり、「以前より低くなった」、「わからなくなった」、「もともと希望していない」と回答した学生の平均時間である2.1時間よりも長かった。このことから、保育職への意識の高さや熱意が記録内容を濃くし、記録作成の時間に影響したことが考えられる。

表－6) 保育所実習 I 終了後の記録作成に関する印象

		全く そう思わ ない	あまり そう思わな い	そう思う	とても そう思う
環境構成の意図の記入が難しい(全体の63%にあたる107名が回答)	N (人数)	7	39	43	18
	パーセント	6.5	36.4	40.2	16.8
保育中メモなどを取る際、担任保育者の援助ばかりに目が行き、子どもの様子をじっくり観られない	N (人数)	26	95	42	8
	パーセント	15.2	55.6	24.6	4.7
記述量が多く、しんどさを感じる	N (人数)	14	84	56	17
	パーセント	8.2	49.1	32.7	9.9
記録を書くことで、部分実習等の指導案の作成や教材研究の時間が十分取れない	N (人数)	13	59	66	33
	パーセント	7.6	34.5	38.6	19.3
作成に時間がかかりすぎてしんどさを感じる	N (人数)	13	69	56	33
	パーセント	7.6	40.4	32.7	19.3
記述内容の多くが、毎日同じような内容の繰り返しになってしまいがちになる	N (人数)	4	26	74	67
	パーセント	2.3	15.2	43.3	37.4

記録作成に関する印象では、「環境構成の意図の記入が難しい」かの質問に約43%が“そう思わない”（「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の合計）と回答し、約57%が“そう思う”（「そう思う」と「とてもそう思う」の合計）と回答した。同様に「記録を書くことで、部

分実習等の指導案の作成や教材研究の時間を十分取れない」かの質問に“そう思う”と回答した学生が約58%いた。

「保育中メモなどを取る際、担任保育者の援助ばかりに目が行き、子どもの様子をじっくり観られない」かの質問に“そう思う”と回答した学生が約29%で、“そう思わない”と回答した学生の約71%に比して大幅に少ない。また、「記述量が多く、しんどさを感じる」かの質問には、“そう思わない”と回答した学生が約57%で“そう思う”の約43%を上回った。「作成に時間がかかりすぎてしんどさを感じる」かの質問には、約52%の学生が“そう思う”と回答し、“そう思わない”の約48%とほぼ半々の結果となった。「記述内容の多くが、毎日同じような内容の繰り返しになってしまいがちになる」かの質問では、“そう思う”と回答した学生が約81%あった。

以上の結果から「環境構成の意図の記入が難しい」や「記述量が多い」や「記録作成に時間がかかる」や「記録によって他の準備をする時間が十分取れない」という記録作成そのものに関する項目に関しては、“そう思う”と“そう思わない”の割合に大きな差はみられなかった。このことは、学生の力量によることが影響していると考えられる。しかし、「保育中メモなどを取る際、担任保育者の援助ばかりに目が行き、子どもの様子をじっくり観られない」の項目では、約71%の学生が“そう思わない”と回答し、このことは反対に、子どもの様子をよく観られた学生が約71%いたことを意味する。また、「記述内容の多くが、毎日同じような内容の繰り返しになってしまいがちになる」かの項目に“そう思う”と回答した学生が約81%であったのは、新記録様式で求められる子どもの心情面の考察にまでは至らなかったことや保育を観る視点がはっきり理解できず、目に見えるのみの子どもの観察に留まったために、ほぼ同じような内容の繰り返しになったと感じたのではないかと推察される。

表-7) 保育実習 I 終了後の記録作成を通して育つ側面

		全く そう思わ ない	あまり そう思わ ない	そう思う	とても そう思う
自分自身の課題の明確化につながる	N (人数)	3	52	100	16
	パーセント	1.8	30.4	58.5	9.4
保育所の1日の流れや生活についての理解につながる	N (人数)	2	29	110	30
	パーセント	1.2	17.0	64.3	17.5
発達の特徴や心情理解など、子ども理解につながる	N (人数)	3	32	113	23
	パーセント	1.8	18.7	66.1	13.5
子どもへの援助や関わり方への理解につながる	N (人数)	0	25	116	30
	パーセント	0.0	14.6	67.8	17.5

子どもの発達に即した保育のあり方についての理解につながる	N (人数)	2	38	114	17
	パーセント	1.2	22.2	66.7	9.9
保育における安全管理、安全教育や健康支援についての理解につながる	N (人数)	4	53	99	15
	パーセント	2.3	31.0	57.9	8.8
子どもの生活や遊びを考慮した適切な保育環境についての理解につながる	N (人数)	2	34	116	19
	パーセント	1.2	19.9	67.8	11.1
保育者の役割と職業倫理についての理解につながる	N (人数)	7	60	92	11
	パーセント	4.1	35.1	53.8	6.4

表－ 8) 保育実習 I 終了後の記録作成を通して育つ側面 1 位から 3 位

	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
	N (人数)	パーセン ト	N (人数)	パーセン ト	N (人数)	パーセン ト
自分自身の課題の明確化につながる	16	9.4	18	10.5	13	7.6
保育所の 1 日の流れや生活についての理解につながる	55	32.2	26	15.2	18	10.5
発達の特徴や心情理解など、子ども理解につながる	26	15.2	37	21.6	28	16.4
子どもへの援助や関わり方への理解につながる	51	29.8	34	19.9	26	15.2
子どもの発達に即した保育のあり方についての理解につながる	4	2.3	22	12.9	22	12.9
保育における安全管理、安全教育や健康支援についての理解につながる	4	2.3	8	4.7	17	9.9
子どもの生活や遊びを考慮した適切な保育環境についての理解につながる	7	4.1	18	10.5	36	21.1
保育者の役割と職業倫理についての理解につながる	5	2.9	5	2.9	9	5.3

表－ 9) 「流れ型記録」と「新記録様式」を比較した場合の感想

	人数 (N)	パーセント
流れ型記録が良い	43	25.1
新記録様式が良い	128	74.9

記録作成を通して育つ側面についての質問では、ほとんどの項目で高い評価がなされた。また、学びにつながったと思う項目を1位から3位まで選んだ結果は、「保育所の1日の流れや生活についての理解につながる」は全体の約58%、「発達の特徴や心情理解など、子ども理解につながる」は全体の約52%、「子どもへの援助や関わり方の理解につながった」は全体の約65%の学生が、1位から3位までの上位に挙げていた。

また、今回の調査対象学生は、2年に進級する直前に、教育実習（幼稚園）で「流れ型記録」を使用しているが、どちらの記録が良いかの質問には、約75%の学生が「新記録様式」が良いと回答した。自由記述欄には、その理由として「記録作成にかかる時間の短さ」や「記述量の少なさ」を挙げている学生が約65%あった。単に、記録作成の時間や記述量が少ないからというほかに、そのため「体調が良好」であったことや「他の実習準備に時間を使えた」、「子どもと多くかかわれた」という記述が加えられていたものが多数あった。また、「新記録様式」が良いとする理由としてほかには、「まとめやすいので要点がみえやすい」、「振り返りがしやすく自分の課題がわかりやすい」、「子どもの理解が深まる」、「保育者の援助が学べた」、「自由記述のページは様々なパターンが記録できて良い」といった「学びにつながった」という理由を記述した学生が約30%あった。その他、少数ではあるが、「自分の思いが書きやすい」や「担当保育者に思いが伝わりやすい」という記述もみられた。

また、実習園の「新記録様式」に関する意見・感想については、以下のようにまとめられる。

①「指導しやすい」や「見やすく、要点がまとめられている、内容が深まった」といった「内容が良くなった」という「新記録様式」を良いとする評価と捉えられる記述が19人にあった。

②「保育者の援助を書く欄がないや少ない」という意見や、この記録様式では「書いている意味がない」といった厳しい意見も記述されていた。また、「指導がしにくい」や「指導が難しい」という様式の変化に戸惑う意見や単に記述量が少なすぎるという意見も記述されていた。他に、「書いている内容が似ている、エピソード記録の書き方を学んでから書くべき」といった書く力の不足が指摘されていると思われる意見も記述されていた。圧倒的に多かったのは「保育者の援助を記入できない」という意見であったが、このように「新記録様式」を悪いとする評価と捉えられる記述が62人にあった。

③単に記録様式が変わったことへの関心が示されたという内容で、どちらでもないと捉えられる意見（評価）が10人の記述にみられた。

以上は、実習学生（全体の約53%にあたる91人の記述）を通した実習園の意見や感想である。実習記録の主流である「流れ型記録」を通して、保育者の援助や配慮点が何を意図するかを学生に学ぶことが重要と捉えられていることが窺がえる意見が多く聞かれた。

表一 10) 保育所実習 I の記録作成の印象と記録から学べたこととの関連性

		環境構成の意図の記入が難しい	保育中メモなどを取る際、担任保育者の援助ばかりに目が行き、子どもの様子をじっくり観られない	記述量が多く、しんどさを感じる	記録を書くことで、部分実習等の指導案の作成や教材研究の時間が十分取れない	作成に時間がかかりすぎてしんどさを感じる	記述内容の多くが、毎日同じような内容の繰り返しになってしまいがちである
自分自身の課題の明確化につながる	相関係数	-.147	-.118	-.169*	-.025	-.118	-.147
保育所の1日の流れや生活についての理解につながる	相関係数	-.041	.045	-.031	.201**	.124	.088
発達の特徴や心情理解など、子ども理解につながる	相関係数	-.259**	-.164*	-.090	-.055	-.053	-.157*
子どもへの援助や関わり方への理解につながる	相関係数	-.089	-.051	-.009	.034	.035	-.022
子どもの発達に即した保育のあり方についての理解につながる	相関係数	-.047	-.122	-.062	.043	.061	-.134
保育における安全管理、安全教育や健康支援についての理解につながる	相関係数	-.104	.004	-.051	.178*	.122	.068
子どもの生活や遊びを考慮した適切な保育環境についての理解につながる	相関係数	.006	-.024	-.038	.113	.086	.026
保育者の役割と職業倫理についての理解につながる	相関係数	-.138	-.083	-.075	.081	.062	.048

(Spearman のロー検定 * p < 0.05 ** P < 0.01)

「新記録様式」を初めて使用した学生の記録作成の印象と記録を通して学べたこととの関連では、上記の表中に影を付けたところに有意な相関がみられた。「発達の特徴や心情理解など、子ども理解につながる」かの質問に“そう思わない”と回答した学生は「保育中メモなどを取る際、担任保育者の援助ばかりに目が行き、子どもの様子をじっくり観られない」かや「記述内容の多くが、毎日同じような内容の繰り返しになってしまいがちである」かの質問に“そう思う”と回答していた。つまり、記録作成を通して子ども理解につながらない学生ほど保育中に担任保育者の援助ばかりに目がいくと考え、記述内容も同じような繰り返しになりがちと考えていたのである。また、「記録を書くことで、部分実習等の指導案の作成や教材研究の時間が十分取れない」と回答した学生は「保育所の1日の流れや生活についての理解につながる」や「保育における安全管理、安全教育や健康支援についての理解につながる」と回答していた。このことは、一見記録作成によって他のことに手が回らないとも取れるが、保育をしっかりと見ているため記述する内容も多いことが、結果として「保育所の1日の流れや生活の理解」や「安全管理、安全教育や健康支援についての理解」の学びにつながっていると言えるのである。

まとめ

本研究は、子ども理解を重視した「新記録様式」の作成を通して、子ども理解につながったのかを検証するとともに、「新記録様式」の課題について検討することを目的に、「新記録様式」に関するアンケート調査を実施した。その結果から分かったことは次の通りである。

①学生の負担感

新記録様式では、記述するスペースが決められていることから、記録作成に時間があまりかからなかったことや記述する量が少ないことから、学生の負担が減少した。その結果、睡眠時間の確保ができたことと他の実習準備にも時間を費やせたことが判明した。反面、記録を書くことで、部分実習等の指導案の作成や教材研究の時間が十分取れないと感じた学生のほうが「保育所の1日の流れや生活の理解」、「安全管理、安全教育や健康支援についての理解」につながったと回答しており、自由に記述する箇所を含め、学生の意欲など取り組む姿勢によっては深く学べる様式であると言える。

②子ども理解

毎日の記録用紙には、子どもの姿をよく観ることや保育者が子どもにどのようにかかわり援助したかの内容が求められている。そのため、学生自身が子どもとしっかりかかわったり保育者の子どもへのかかわりをよく観て記録しなければならず、そのことが保育者の援助の意図の記録に中心が置かれたこれまでの「流れ型記録」よりも学生にとって子どもについての理解や子どもの発達に応じた保育者の援助の理解につながったと回答する割合が高かった理由と考えられる。

③子ども理解に関して課題となること

子ども理解を深めるためには、子どもの行動や姿の奥にある見えない部分を察する力が求められる。そのために、子どもとのかかわりから子どもの心の動きを考察したり、保育者の子どもへのかかわりや援助について何が学べたかを考察したりすることが、記録を通して求められる様式となっている。日々、新たな子どもの姿と保育者の援助があるはずであるが、「記述内容の多くが、毎日同じような内容の繰り返しになってしまいがちになる」かの項目に約8割の学生が“そう思う”と回答していたのは、子どもの心情面の考察にまでは至らなかったことや保育を観る視点がはっきり理解できていなかったことがその理由と推察される。子どもの心情面の考察ができるような記録となるようさらなる事前の指導が必要と判った。

以上のことから、「新記録様式」は、学生が子ども理解を深めることについては、一定の評価ができるものと言える。しかし、学生の側からの実感によるものである。先述の通り、子どもの心情面の考察ができるような記録となるようさらなる事前の指導を行うとともに、実習園の担当保育者からもさらに学生の子どもの理解につながる指導をいただけるよう、記録用紙に指導のポイントを明記することも含め、今後もより良い記録様式の検討をしていきたい。

注

1. 杉岡幸代 柘植誠子 高市勢津子「学生の主体的な学びとなる実習記録のあり方—保育実習Ⅰ（保育所）における子ども理解を重視した記録様式の検討—」日本保育者養成教育学会ポスター発表、2017年3月。
2. 開（2012）は、時系列的に子どもの活動や保育者の援助を記述する「流れ型記録」が現在の保育実習記録では多く採用されているが、観察に向いているものの、子どもと保育者のやり取りを詳細に記述できない点をデメリットとして指摘している。
3. 新記録様式については、本稿文末の【資料2】を参照。
4. 注1の研究（2017）において、学生が記述量の多さや保育者の援助の意図を考える難しさに頭を悩ませることが、かえって子ども理解を深めにくくしていることが示唆された。同時に、保育者が行った子どもへの援助について考える比重が大きい場合に、学生の主体的な学びにつながりにくいという可能性が考えられた。

引用・参考文献

1. 厚生労働省『保育所保育指針解説書』、フレーベル館、2008年、18頁。
2. 小山祥子「幼児理解と保育者の援理解を深める保育記録に関する研究（Ⅱ）—エピソード記録型実習日誌の効用と課題—」『北陸学院短期大学紀要 39』、2007年、45—58頁、参照。
3. 幸順子・秋田房子「保育実習における記録様式作成の試み（第1報）『名古屋女子大学紀要 52』、2006年、101—112頁、参照。
4. 幸順子「保育実習における記録様式作成に関する研究—記録の活用しやすさに関する質問紙調査結果から—」『名古屋女子大学紀要 55』、2009年、159—172頁、参照。
5. 栗山陽子「保育所保育実習における実習記録—「毎日の記録」様式作成の経緯と「毎日の記録」様式改正の試案—」『子ども学研究論集2』、子ども学研究編集委員会、2010年、63—79頁参照。
6. 開仁志「保育に関する実習日誌の形式」『富山国際大学子ども育成学部紀要』、2012年、95—104頁、参照。

【資料1】 実習記録に関するアンケート調査

本調査は、学生の皆様の「新しい実習記録様式の作成に関わる実態や使用感」を明らかにするとともに、「新しい実習記録様式の課題について」検討することを目的として行うものです。

アンケートは無記名で行い、皆様から得た回答は本研究のみで利用します。また、本研究は、「大阪キリスト教短期大学紀要第57集」（2017年12月予定）および「日本保育者養成教育学会第2回研究大会」（2018年3月予定）にて発表する予定です。

本調査への参加は自由です。調査にご協力いただける場合には、ご迷惑をおかけすることは決してありませんので、率直にお答えください。正しい答えや間違った答えというものはありません。思った通りご回答くださいますようお願い申し上げます。

なお、ご回答の際には質問をよくご確認ください、解答もれのないよう全ての質問についてお答えくださいますようお願いいたします。

また、調査に不参加の場合でも、学業成績等になんら影響を及ぼすことはありません。

調査者： 柘植誠子（大阪成蹊短期大学） 大和晴行（武庫川女子大学）
高市勢津子（大阪キリスト教短期大学） 杉岡幸代（大阪キリスト教短期大学）

1. あなたの保育所での実習経験についてお尋ねします。当てはまるものに○を、()内には当てはまる数字を記入してください。

(1) 一番最近経験した保育所での実習は次のどちらですか。 ①保育実習Ⅰ ②保育実習Ⅱ

(2) 一番最近経験した実習の配属クラスと日程についてお尋ねします。()内に日数をお答えください。

- ・0歳児クラス () 日
- ・1歳児クラス () 日
- ・2歳児クラス () 日
- ・3歳児クラス () 日
- ・4歳児クラス () 日
- ・5歳児クラス () 日
- ・異年齢(3歳以上)クラス () 日
- ・異年齢(2歳以下)クラス () 日
- ・0歳から5歳の合同クラス(土曜など) () 日

(3) 一番最近経験した実習での部分実習経験についてお尋ねします。()内には回数をご記入ください。ない場合は「0」を記入してください。

- ・指導案作成のない部分実習 () 回
- ・指導案作成を要する部分実習 () 回
- ・半日もしくは全日実習 () 回

(4) 一番最近経験した保育実習を経て、あなたの保育職への想いとしてもっとも当てはまるもの1つに○をしてください。

保育職への想いが・・・

① 以前より強くなった	② 以前と変わらず強い	③ 以前より低くなった
④ わからなくなった	⑤ もともと志望していない	

2. 実習記録の作成についてお尋ねします。

(1) 一番最近経験した保育実習で、あなたが記録に要した時間は平均するとどの程度ですか。

() 内に数値をご記入ください。

記録作成時間は平均 一日 () 時間

(2) 実習記録の作成をすることについて、あなたのお考えをお答えください。下記の各項目についてのあなたの感想として当てはまる番号1つに○をしてください。

※実習全体を通して感じたことでなく、あくまで実習記録を作成することを振り返ってご記入ください

		とても そう 思う	そう 思う	あまり そ う 思 わ な い	全く そ う 思 わ な い
	実習園から保育者の援助や環境構成の意図について記録するようご指導がありましたか？YesまたはNoのどちらかを○で囲み、Yesの場合は、1の問いへ。Noの場合は、2の問いへ進んでください。 (Yes ・ No)				
1	環境構成の意図の記入が難しい	4	3	2	1
2	保育中メモなどを取る際、担任保育者の援助ばかりに目が行き、子どもの様子をじっくり観られない	4	3	2	1
3	記述量が多く、しんどさを感じる	4	3	2	1
4	記録を書くことで、部分実習等の指導案の作成や教材研究の時間が十分取れない	4	3	2	1
5	作成に時間がかかりすぎてしんどさを感じる	4	3	2	1
6	記述内容の多くが、毎日同じような内容の繰り返しになってしまいがちになる	4	3	2	1

7	自分自身の課題の明確化につながる	4	3	2	1
8	保育所の1日の流れや生活についての理解につながる	4	3	2	1
9	発達の特徴や心情理解など、子ども理解につながる	4	3	2	1
10	子どもへの援助や関わり方への理解につながる	4	3	2	1
11	子どもの発達に即した保育のあり方についての理解につながる	4	3	2	1
12	保育における安全管理、安全教育や健康支援についての理解につながる	4	3	2	1
13	子どもの生活や遊びを考慮した適切な保育環境についての理解につながる	4	3	2	1
14	保育者の役割と職業倫理についての理解につながる	4	3	2	1

(3) 上記の質問項目7番～14番のうち、実習記録の作成を通して特に学びにつながったと思う項目を1位から3位まで選び、当てはまる項目番号を()内にご記入ください。

特に学びにつながった項目	1位 ()	2位 ()	3位 ()
--------------	--------	--------	--------

3. 新実習記録様式について、実習園からいただいたご意見・感想などがありましたら、自由に記述してください。

4. 教育実習(幼稚園)で使用した記録様式と、保育実習I(保育所)で使用した新記録様式と比較し、どちらが良いと思いますか?当てはまるものに○をし、その理由を()に記述してください。

①教育実習(幼稚園)	②保育実習I(保育所)
------------	-------------

(理由:)

【資料2-1】 日々の記録（表面・実際はA4サイズ）

				実習生名 _____	
月	日	曜日	天候	実習第（ ）日目	
クラス名 出席状況	組（ ）歳児		出席（ ）名	欠席（ ）名	
クラスのねらい					
実習生の目標					
1日の流れ			保育者からの学びと気づき		
時間	子どもの生活の実際	実習生の対応と子どもの反応			
			印象に残った子どものエピソードとその考察		
			本日の実習での疑問点や困った点		
			明日の実習への課題		
〈指導助言〉					印

大阪キリスト教短期大学

【資料2-2】 日々の記録・裏面（実際はA4サイズ）

<p>☆☆自由記述のページ（必要に応じて使用）☆☆</p>	
<p>本日の活動における環境構成と学び</p>	
<p>本日の保育資料</p>	

大阪キリスト教短期大学